

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491000057		
法人名	社会福祉法人 一心会		
事業所名	グループホーム やまが苑		
所在地	大分県杵築市山香町大字野原1405番地の6		
自己評価作成日	平成27年9月27日	評価結果市町村受理日	平成27年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成27年9月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然環境に恵まれ、四季の移り変わりを感じながら、その人らしく穏やかに過ごしていただける様に努めています。苑の裏庭にある畑には、花や野菜を植えています。収穫を楽しみ、生花や収穫した野菜を調理して食事等に取り入れています。敷地内に併設の養護老人ホームやデイサービスがあり、地域の行事等もお互いに協力し合い交流を図っています。また健康体操、生花教室、音楽教室、法話などを行い日常生活のリフレッシュを心掛けています。散歩の他、外出する機会を計画し、足湯や外食、観劇、買い物ドライブに出かけ気分転換を図っています。医療面では、近隣に協力病院があり、診療科目が多いのも安心です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・利用者の個性を大切にされた支援を行っている。月1回「井戸端会議」を開催し、本人の言葉や思いを聞く機会を設けている。
- ・介護福祉士など資格取得者が多く、研修への参加や職員の人材育成に力を入れている。
- ・看護師資格を持った職員を配置し、医療対応の研修など積極的に行っている。
- ・職員間のコミュニケーションがとれており、利用者の安心・安全面について積極的に意見を出し合いながら、日々のケアに活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業者名:

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と地域密着型に基づいた施設理念を掲げている。理念については定期的に職員全体で見直しを行い、理解し支援に繋げている。	定期的に理念の見直しの機会を持つことで、理念の共有を図っている。 今年度、職員全体で話し合い、思いの入った理念を作成し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のふるさと祭りに参加し、文化祭では貼り絵等の作品を出品している。また回覧板に広報誌を掲示してもらったり、商店街の店舗に貼り出してもらい、苑内行事の参加を促している。また行きつけの理髪店を利用されるように支援している。	地域の文化祭に参加したり、事業所の夏祭りや介護教室を開催するなど双方向の交流となっている。事業所の実践を理解してもらうため、地域に広報誌を回覧してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方や中学、高校の実習生を積極的に受け入れている。また介護教室を年3回行い、地域の方やご家族と勉強会を催しながら認知症の理解や交流を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政からの研修案内や意見等を積極的に取り入れて行くようにしている。地域の方々やご家族からの要望などを頂き、職員全体で話し合い改善し、サービスの向上に努めている。	年6回開催される運営推進会議では、事業所の取り組みを報告し、参加者よりアドバイスをもらっている。また、家族からもらった要望や意見は、職員に周知しサービス向上に活かせるよう検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者が運営推進会議に出席され相談等行っている。更新認定の際には、ケアの取り組みについての内容や情報交換など行っている。	事業所の取り組みや実情を伝えながら、相談やアドバイスをもらっている。市担当者が研修情報をくれたり、歯科衛生士を紹介してくれるなど、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人ひとりの状態を職員が把握して、安全面に考慮し、自由な暮らしが出来るように心掛けています。リスク管理委員会や身体拘束廃止委員会で話し合い、内部研修では勉強会を開き理解を深めている。	身体拘束しない方針を掲げている。 定期的に、法人研修や事例検討などの会議を行いながら、職員全員で身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で観察、注意し虐待が行われないように努めている。虐待についての研修会等に参加し学ぶ機会を作っている。会議の際には徹底するように定期的に呼びかけを行っている。		

事業者名：

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	安心サポートを利用されている方がおり、実務の一貫を知る事が出来ている。研修を通して学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書に沿って詳細に説明し、不安や疑問点について気兼ねなく相談出来るように配慮している。状態の変化等により契約解除に至る場合は、本人、家族と今後の方針などを話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や要望を聞く機会として、毎月井戸端会議を行い、出された意見を検討し日々の支援に反映されるように努めている。運営推進会議や家族会で出された意見を話し合い、満足度調査の結果を検討しケアの見直しをしている。	日々の暮らしの中で、本人の意見や要望を聞きながらケアに反映させている。年3回の家族会や満足度調査を行いながら、本人や家族の意見を運営に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議で意見や提案などが言えるような場を設けている。出された提案や改善点などはユニット、または全体で検討し、対応している。また希望時はいつでも個人面談ができるようにしている。	職員から、日々のケアや会議の中でいつでも意見や提案ができるよう配慮している。転倒予防のためのセンサーマット導入など、出された意見を検討し、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談はいつでも出来るような体制を作っている。不満や苦情は言い難い為、把握しきれない可能性もあるが、職員のやりがいに繋げられるように心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望される内容や状況に応じた研修に受講出来るように心掛けている。研修内容は毎月の会議で報告し、回覧で全職員が閲覧できるようにしている。講師を招いての研修なども実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の連絡会やグループホームの連絡会で事例検討や交換実習、意見交換会を設け、サービスの質の向上に励んでいる。また実習生も積極的に受け入れ、交流の機会を作っている。		

事業者名：

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接では、生活状況や本人、家族の困っている事などを把握するように努めている。また本人や家族の話に傾聴・共感し、安心して頂けるようなより良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事や要望される事を十分に傾聴、理解して不安等を取り除き安心出来るように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態により、早急な対応策が必要な相談者には柔軟な対応を行い、場合によっては、他の事業所のサービス利用に繋げるなどの支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を維持、継続されるように、個別やグループで職員と共に協力しながら作業を行える場面作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子を来苑時や毎月の状況報告として担当職員により送付し伝えている。状況によりご家族と連絡を取り合い思いを共有しながら一緒に支えて行く為の協力関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりの生活歴を理解、尊重して援助する事に心掛けている。以前より利用されている理、美容院へ行き会話を楽しんだり、かかりつけ医との関係も途切れないように支援している。	職員は一人ひとりの馴染みの関係を把握している。買い物や外食のためのドライブの途中に馴染みの場に立ち寄り、知人と会う等、これまでの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性、残存機能、役割などを職員間で共有し把握に努めている。日々の心身の状態の変化に気付き、関係性が円滑になるように支援している。		

事業者名：

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族の相談にのり、長期入院者には安心出来るよう日々面会に行ったり洗濯物を引き受けている。他施設に移られる場合、支援状況などの提供、機会を設けて訪問等行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりにおいて、言葉や表情、反応などから、思いの把握に努めて対応するように心掛けている。家族や関係者から情報を得て、サービス担当者会議では本人の立場に立った支援を検討している。	月1回「井戸端会議」を開催し、その時々本人の思いや意向を聞く機会を作っている。家族や関係者と共に、本人の様子や表情から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者からの情報を収集し、情報提供書にて職員間で共有し把握に努めている。自宅での生活環境を見せて頂ける方はお願いして状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で一人ひとりの心身状態や生活リズムの把握に努めている。出来る事を視点に置き、残存機能を活かした支援に取り組むように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望を汲み、モニタリング、カンファレンスで意見交換を行い、個々のニーズに沿った生活支援計画に繋げている。状態の変化等に併せてその都度担当者会議を行いケアの見直しをしている。	本人や家族の意見を聞きながら、介護計画を作成している。モニタリングを繰り返しながら、状況の変化に応じて、その都度話し合い、計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子や状態変化、コミュニケーション等からの内容は個々のケア記録に記載しチームで共有している。また気づきや実践方法が変わった場合は伝達ノートで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護師による体調管理、協力病院やかかりつけ医への定期受診、送迎、また入院され手術の際には、場合により病院に泊まり、付き添う等の支援を行っている。		

事業者名：

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望や体調に応じて、訪問理、美容を利用している。また併設施設での生花教室や法話、行事等に参加して気分転換を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院やかかりつけ医で、定期的に医療が受けられるように支援している。状態により往診に来て頂いている。またいつでも相談出来るように医療機関との関係作りにも努めている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。訪問診療してくれる歯科もある。また、看護職員が専門医や主治医の受診に付き添う等、医療や家族との連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、利用者の健康管理や状態の変化に応じて早急に対応が出来るよう支援している。また併設施設の看護職員の協力を得て相談援助を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療機関に利用者の支援に関する情報を提供し、面会時に医師や看護師との情報交換を行い、相談、指示を仰いでいる。家族と連絡をとりながら速やかな退院援助を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者と家族が安心と納得を得られるように考慮し、状態変化などがあった場合等家族と話し合いを行っている。利用者の重度化や終末期における指針を定め本人、家族の意向をチームで共有し支援に取り組んでいる。	看取りに関する指針を作成しており、入居時に説明している。また、状況の変化に応じて、繰り返し家族と話し合いをしている。職員は本人や家族の意向に添えるよう、研修を行い、チームでの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が普通救命講習を受講し、対応出来る様にしている。夜間の緊急対応についてのマニュアルを定期的に見直し、周知徹底を図っている。内部研修等で勉強会を行い、実践力を身につけるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て利用者と共に避難訓練を実施している。併設施設との合同避難訓練や夜間想定避難訓練を行い、地域の協力体制については運営推進会議にて呼びかけお願いをしている。	年2回、昼夜の火災を想定した訓練を利用者と共に行っている。家族や地域の人が誘導や見守りをしてくれるなど協力体制を築いている。	

事業者名：

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴を把握し、日々の関わり方を留意点として掲げている。気持ちを大切にして尊重した声かけ、気持ちに寄り添う声かけを行うように気を付けている。	職員は本人の人格や誇りを損ねないケアに努めている。日々の関りの中で、言葉遣いや声のトーンについて話し合い、お互いに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせて、本人が答えやすく選びやすいような声かけや働きかけを行っている。意思表示が困難な利用者には表情を読み取るように努め、本人の立場に立った支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた対応を心掛けているも、食事、入浴、行事などは職員の都合で決めている事もあり、利用者に寄り添った支援が必要である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前通っていた馴染みの理・美容院利用への支援を行っている。要望に沿ってお化粧をしたり好みの衣服を選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、盛り付けや片付け等を一緒に行い、食事の楽しみや雰囲気作りを大切にしている。個別に出来る事を活かしながら、協力し合うことで生き生きとした表情を引き出せるよう声かけを行っている。給食会議には参加をして頂いている。	利用者と職員と一緒に配膳や片付けなど、本人の力を生かしながら行っている。井戸端会議などで聞いた本人の好みや希望を給食会議の中で提案し、取り入れてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は個人のケース記録に記載している。状態に応じて食べ易いものや本人の好みの物を提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて食後は洗面所にて口腔ケアを行っている。口腔ケアウエティを使用するなど、一人ひとりの力に応じた支援を行っている。		

事業者名：

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	習慣や排泄パターンを把握して、声かけやトイレ誘導を行いスムーズにトイレで排泄が出来るように支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけトイレでの排泄ができるよう、声掛けをおこなうなど、自立に向けた支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策として、牛乳やヤクルトなどの乳製品を飲用していただき、体操や散歩などで適時に運動を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に沿った時間や、タイミングを観ながら声かけし、状態に応じて隔日に入浴される方やシャワー浴、清拭などを行っている。季節により入浴剤などで楽しんで頂いている。	週に2～3回、本人の希望やタイミングに合わせて入浴している。シャワーチェアなど本人の状態に合わせて支援できるよう福祉用具を準備し、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活のリズムを整えてくように努めている。寝付けない時は飲み物を用意して一緒に会話をしたり、テレビを観たり等の配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニット別に個々の薬の内容を把握出来るようにノートを作成している。薬剤を飲み易い形状にしてもらうなど、状態に合わせて医師や薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を職員全員が把握して一人ひとりが力を発揮できる様な場面を提供し、職員と一緒にやっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や気分に応じて短時間でも戸外に出られるように心掛けている。希望時などは個別に買い物などの支援をしている。お誕生日に外食したり、家族会では外出、外食などを取り入れている。	緑に囲まれた広い敷地内を散歩したり、テラスでくつろぐことを日常的に行っている。農業公園や水源に水汲みに行くなどのドライブや外食など、一人ひとりの希望に添った外出を支援している。	

事業者名：

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額の所持金を自己管理されている利用者もいるが、トラブルにならないように殆ど事業所にて管理している。買物などでは個人の財布より支払いを行い、安心出来る様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者、ご家族の希望に応じて、日常的に電話や手紙のやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月のカレンダーや季節に応じた壁画を利用者と職員で一緒に作り、季節を感じられるような装飾を心掛けている。日光浴や外気浴等で、ゆっくりとくつろげるように支援している。	利用者と一緒に、庭で育てた花を活けたり、手作りのカレンダーを掲示するなど、季節感を大切にしている。その時々を利用者の様子に合わせて、テレビや食卓の配置を変えるなど、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や中庭のベンチを利用したり、ソファやこたつ等を置き、一人で過ごしたり気の合った利用者とかつろげるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、家族の思いを尊重して、居室には、使い慣れたものや思い出の品、仏壇等を置き、一人ひとりが居心地良く安心して過ごせるように配慮している。また家具などの配置も状況に応じて行っている。	仏壇や家族写真、趣味の作品など、その人らしさの見える居室となっている。転倒予防のため、床にカーペットを敷くなど、安全に過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室、トイレに手すりや介助バーを取り付けており、利用者の状態に合わせて使用している。		